



## 公開レクチャー記念インタビュー

### 環境と健康の問題にデータ分析で貢献

環境資源経済学・応用計量経済学

内田真輔先生

\_\_\_先生のご専門はどのような分野ですか？

私の専門分野は「環境資源経済学」と「応用計量経済学」です。環境問題の本質を見極め、解決策を提示するのが「環境資源経済学」です。そして関連する統計データを用いて、問題解決に結びつく定量的エビデンス（客観的証拠）を導出するのが「応用計量経済学」です。これらを基に、環境政策の形成に貢献するための研究を行っています。

\_\_\_ 2つの分野に関わるご研究なのですね、具体的にはどんな内容でしょうか？

現在手がけているものとして、異常気象が健康に及ぼす影響ならびにエネルギー価格との関係性を分析した研究があります。

\_\_\_ 異常気象と健康の関係、ですか。

健康への影響を分析する際に私たちが着目したのは死亡率です。近年、猛暑や寒波などの極端な気象現象が死亡率におよぼす影響の大きさに注目が集まっています。私たちは、これら異常気象に対する人々の回避行動メカニズムの存在にもあわせて着目しました。

\_\_\_ 回避行動メカニズム、というとどういうものをイメージすれば良いでしょうか。過度な暑さや寒さから身を守る仕組み、ということでしょうか。

そうですね。私たちの研究では主としてエアコンの使用を指しています。エアコンは過度な気温への曝露を効果的に緩和します。ただ、エアコンの使用頻度は電力価格の影響を受けます。たとえば東日本大震災後の一時的な電力価格の急上昇により、エアコンの使用は大幅に抑制されたと言われています。こうした状況下では、異常気象の健康への影響がより顕著に出やすいわけです。そこで私たちは、電力価格の変化が死亡率にどの程度影響したのか、定量的に評価しているところです。

\_\_\_このご研究で特に大変なところはどんなところですか？

この研究に限らず、研究活動は常に自分との闘いです。まるで宝探しのようなデータ発掘、分析過程におけるトライ＆エラーの繰り返し、満足な分析結果が出ない時の焦燥感など、苦勞を挙げたらキリがありません。ただ、常にクリアすべき課題が目の前にあるからこそ、かけがえのない瞬間もたくさんあります。誰もが知らない新事実を発見した時の高ぶりや、苦難を乗り越える度に強まる共同研究者との結束力や達成感の共有経験は、研究活動の大きなモチベーションとなっています。

\_\_\_先生の担当科目は「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」ではどんな勉強をするのでしょうか？

世の中の様々な環境問題について現状と本質を理解し、解決策を提示するために必要な理論的枠組みを学びます。また、現実の環境問題と環境政策を事例に扱うことで実践的な分析力の醸成をあわせて目指します。



\_\_\_授業で特に大切にしていることは何ですか？

経済学部には、演習形式の少人数制講義がある一方で、履修者が100人を超えるような大講義もあります。大講義では講師と学生の関係が一方通行になりがちで、学生一人一人とのアクティブな対話は難しくなります。そこで、私が受け持つ大講義ではコメントシートを用いた対話ツールを採用しています。

\_\_\_コメントシートですか。学生さんと対話するためにお使いになるんですね？

はい、講義内容に関する質問や意見ならびに要望などをコメントシートに書いて提出してもらっています。翌週の講義でこれらに対するフィードバックを行うことで、履修者全員でコメントを共有しながら講義内容の復習を行うと共に、改善余地のある事項にも迅速に対応することで、学びやすい環境を常に整えることができるよう心掛けています。

\_\_\_では最後に、高校生の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

高校生のみなさん、受験勉強等で忙しい毎日を送っていることと思いますが、無理をして心身に負担をかけすぎていませんか。運動選手と同じく、みなさんも学びのアスリート。実りある成果を出すためには、体力と精神力双方の充実が不可欠です。苦しい時期はたくさんあるでしょうが、家族や友人、高校の先生のサポートなども上手く受けながら健康第一で乗り越えてください。